ととりしんぽう 鳥取新報

第161号　平成27年1月版

掲載期間　1月下旬
～　2月中旬

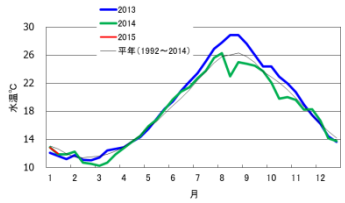
発行　鳥取県水産試験場　（電話0859-45-4500）

鳥取沿岸の水温

（栽培漁業センター沈砂槽）

1月中旬　12℃

平年より0.7℃低め



1月は、第一鳥取丸による海洋観測がないため、広域水温分布図はありません。

水産試験場

平成26年ベニズワイ資源管理共同調査

ベニズワイ資源の動向を見るため、規制されているサイズ以下の雄や漁獲不可の雌も採集できるよう国から特別に許可をもらい、3cmの網目の試験篭を使用して、ベニズワイ漁業者と共同で日本海中央部の大和堆から浜田沖の水深1,000メートル前後の漁場内で平成26年10月に調査を行いました。

図1 通常篭（左）と試験篭（右）の漁獲差

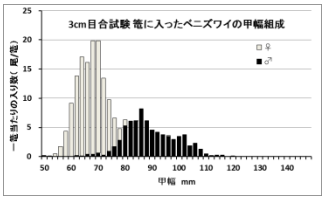


図2　平成26年試験篭で採集された雌雄別甲幅組成

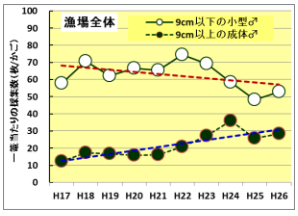


図3　漁場全体の未成体と成体の年別推移

（結果概要）

・H26年の結果は、通常篭で一篭当たり雄43枚、試験篭で雄73枚、雌125枚となり、通常篭（リング付）を使用することにより一篭当り小型雄約30枚、雌約125枚の保護が昨年と同様に実証されました(図1)。

・また漁場内には、甲幅7cmにモードをもつ雌や、甲幅8～9cmにモードを持つ小型の雄が多く分布していることが分かりました（図2）。

・これまでの試験篭での採集状況の推移から、省令で制限されている甲幅9cm未満（未成体♂）と9cm以上(成体♂）についてその動向 (図3)をみると、9cm以上の成体♂は緩やかに増えてきていますが、9cm未満の未成体♂は、平成22年頃から漸減傾向(発生量が少ない)を示しています。

・9cm未満の未成体♂は成長して順次資源として漁場に加入してきますので、未成体個体の漸減傾向は、成体♂資源の減少を予測させるものと考えられます。

・このため引き続き、ベニズワイ資源を監視していく必要があります。

水産試験場

太平洋クロマグロ産卵場推定結果

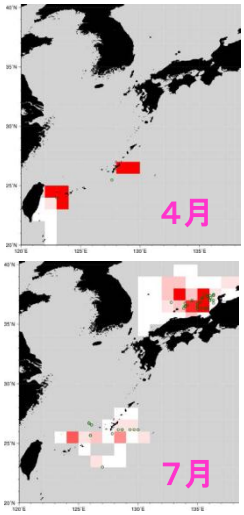


図　推定された太平洋クロマグロの産卵場

赤色：濃いほど産卵場の可能性が高い海域
緑丸：リングネット曳きによる仔魚採集地点

※26年5月16日水産庁プレスリリースより

【調査参画機関】 水研センター、沖縄県、鹿児島県、山口県、島根県、鳥取県、石川県、水産大学校

【方法】 H23～25年度の3年間で生まれて数日のクロマグロ仔魚（数㎜）計536尾を採集しました。仔魚の耳石からふ化後日数を推定し、採集地点からふ化後日数と、ふ化までにかかる1日分を潮流モデルで逆算し産卵場を推定しました。

【結果】 日本海の産卵場は次のとおり推定されました。
産卵期：6月下旬に若狭湾沖で産卵を開始し、7月に隠岐諸島～能登半島を中心とした海域で産卵
産卵場：隠岐諸島～能登半島、および新隠岐堆付近

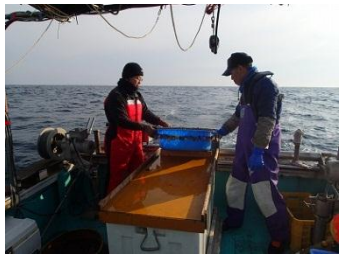
【今後】 平成26年度も調査規模を縮小したものの同様の調査を行っています。また、まき網でのシラコ（産卵群）まきの位置や、潮流、水温、餌料等の観測結果も加えて検討していきます。

栽培漁業センター

2015年一発目で大物が揚がりました（逢福）

今年度がラストのフグはえ縄試験操業。
今年は、これまでの試験操業の成果で、赤碕、浜村、賀露で新たなにフグはえ縄に取り組む者が生まれる年になります。
そのような門出の年の調査船での初漁で、右のトラフグが釣れました（逢福）。
1月14日、由良川沖の水深64mに、はえ縄3鉢（幹縄1500m、針176本、餌イワシの切り身）を張り、1時間半後から揚縄開始。
初めての海域で海底状況が分からない中、2鉢目まで、ウッカリカサゴ2尾、アオハタ1尾、ホシザメ20尾と厳しい状況。しかし、最後の一鉢の中盤にドラマが！

出ました全長635mm重量6240gのトラフグ。その後おまけで尾叉長80cmのスズキも。



翌日15日の賀露地方卸売市場に試験出荷したところ、出ました3万円！
また、1月21日に赤碕の漁師さんと一緒に出た試験操業でも510mm（3,090g）のトラフグが揚がりました。
2015年さい先好調です。

★水産課からのお知らせ★

浜の活力再生プランが始動します

浜の活力再生プランとは？

「浜の活力再生プラン」は、5年間で10%の所得向上を目的とした漁業所得向上およびコスト削減等の取組計画をまとめたものです。
県内4地域でプラン策定が進められており、このうち岩美町地域では、プラン策定が終了し、活動が始まりました。

岩美町地域浜の活力再生プランの概要

項　目	内　容
付加価値向上 水産加工	活魚出荷、漁獲物の高値市場取引等 加工場・レストラン整備、新商品開発
漁場改善による資源づくり	調査、種苗放流、藻場造成等
担い手育成	生活基盤の整備、勉強会、リーダー育成
魚食普及・観光	魚食普及活動、体験漁業、ツアー企画等
漁業コスト削減	省燃油活動

岩美町地域のプランの特徴は、加工場、活魚センター等の整備、活用により付加価値の創出、6次産業化の推進です。平成27年7月オープン予定の岩美町の道の駅では、地元の水産物・加工品の販売が計画されており、さらに、「山陰海岸ジオパーク」としての地の利を生かした観光との連携にも力を入れ、浜の活力をあげていく予定です。

地魚の粕漬けづくりにチャレンジ！

プラン実現に向けて、田後漁協加工グループは、八頭町の地域活性化グループ「FALCON」と連携し、地魚の粕漬けづくりに取り組んでいます。（「水産物流通改革・消費拡大チャレンジプラン」）

酒粕は、八頭町隼で栽培された酒米「亀の尾米」で奈良県の酒蔵「北岡本店」で製造されたもの。先日、第1回目の試食会でサワラ、ハタハタ、ニギス、ハマチ、スルメイカで試作された粕漬けが、関係者に披露されました。これまでにない新しい魚の味に驚きの声が上がりました。

試作段階であり、まだまだ改良の余地がありますが、農村と漁村が交流して何かを一緒に作り上げる初めての試みであり、お互いよい刺激になっているという声が聞かれました。県産品の素材のよさを活かした新たな地域ブランド創出に向け期待が膨らみます。

■今月の漁業許可証更新情報
平成27年3月31日までに許可の更新が必要な漁業種類は以下のとおり
・・・固定式刺網一重網（中海・境水道を除く）、自家用餌料びき網、潜水器
■遊漁船登録業者の皆様へ
遊漁船登録に保険期間等の変更があった時は、変更申請をお忘れなく

平成２６年４月から下記２社の広告を１年間掲載することになりました。

いつの時代も、技術とサービスをもって水産業・漁業の皆様を支援してまいります
西日本ニチモウ株式会社
本　　社　山口県下関市小月小島2丁目3-17　〒750-1136
電話 083-282-4041（代表）FAX 083-282-0424
境港営業所　鳥取県境港市栄町67番地　〒684-0006　電話 0859-44-0475　FAX 0859-42-6330

◎ 共和水産株式会社
代表取締役会長　相田　仁
〒684-0006　鳥取県境港市栄町65番地
TEL 0859-44-7171（代）　FAX 0859-42-6530